

機関番号：32204  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20500557  
 研究課題名（和文）ドイツ語圏の学校体育におけるBewegte Schuleの実情と課題について  
 研究課題名（英文）The research about "Bewegte Schule" in physical education schools in Germany and Switzerland  
 研究代表者 近藤智靖 (KONDOH TOMOYASU)  
 白鷗大学・教育学部・准教授  
 研究者番号：50438735

研究成果の概要（和文）：本研究では、ドイツとスイスの Bewegte Schule（ベバークテシューレ）プロジェクトについて調査をし、その状況と課題を確認してきた。このプロジェクトは、スイスのイリーらによってはじめられ、その後ドイツ語圏に大きく広がったが、その取り組みは地域や学校によって全く異なっていることがわかった。概ね4つのコンセプトに分類されており、運動を学校の中心に位置づけ、健康、児童同士の交流、学校改革など、様々な取り組みが見られていた。

研究成果の概要（英文）：In this study, the project "Bewegte Schule (Moving school)" in physical education schools in Germany and Switzerland is investigated, and the situation and the problems have been confirmed. This project was started by Urs Illi in Switzerland and has extended in Germany, but the approach is quite different according to the region and the school. There are four concept for this project, and "movement" is at the center of the school. The purpose is to develop health, communication between students and to implement school reform.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：スポーツ教育学

科研費の分科・細目：健康スポーツ科学・身体教育学

キーワード：Bewegte Schule 動きのある学校 ベバークテシューレ 健康教育 学校文化 運動教育

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 文部科学省より発表された「平成18年度体力・運動能力の概要」では依然として児童生徒の体力が低水準にある。

(2) 諸外国の取り組みには様々あるが、ドイツ語圏の Bewegte Schule（以下、ベバークテシューレ）は特徴的である。

(3) 我が国には、ドイツ語圏の同プロジェクトについての情報が断片的にしかなく、十分な情報が得られていない。

## 2. 研究の目的

ドイツ語圏のベバークテシューレの実情と課題を明確にする

### 3. 研究の方法

#### (1) 文献調査

#### (2) 現地調査

同プロジェクトの基本原理の検討や現地校の調査を行う。ドイツ語圏の研究業績のある5名の研究者によって現地調査を行う。対象地域は、ドイツのニーダーザクセン、ザクセン、ノルトライン・ヴェストファーレン、ヘッセン、ラインラントプファルツといった各州のベバークテシュレをはじめ、スイス・バーゼルのベバークテシュレを対象とした。

### 4. 研究成果

#### (1) ベバークテシュレの概要

1983年にスイスの Urs Illi が、児童生徒の腰痛に関する調査を実施したことから始まっている。彼は、多くの児童生徒が何らかの腰痛を抱えていることから、これまでの座学を中心とした硬直化した学校教育の改善を目指して、同プロジェクトを開始した。彼は「座ることが身体への負担となる“**Sitzen als Belastungen**“”という標語を掲げ、椅子や机といった学習環境の改善や、授業中に軽い運動を行う「授業中小休止」を実施するなど、様々な取り組みをした。彼の考えるベバークテシュレは、「健康学校」と置き換えられる。彼の試みはスイスに留まらず、ドイツでも知られるようになる。

#### (2) ドイツでの受容

ドイツでは、1990年代になってから学校スポーツの危機が生じており、スポーツ授業の時数削減と関連して、スポーツ授業の根拠が問われるようになる。加えて、ドイツ全体の社会状況や教育界の変化により、これまでの半日制の学校教育から終日制への移行が一部の州で大きく始まっていく。また、外国籍を持つ児童生徒とドイツ籍の児童生徒の統合・交流の問題が大きく取り上げられたり、2000年代になってからは、PISAをはじめとした国際学力テストの問題などがあつたりと、様々な問題状況に直面していた。こうした問題状況を打破するための一方策としてベバークテシュレの取り組みが各地で始まる。Eckert Balz の調査によると、現在1000校以上がこうしたプロジェクトに対して部分的に参加している。

#### (3) プロジェクトの内容

ベバークテシュレプロジェクトの内容としては、共通して下記の6つが想定されている。

- ①多様な学習形態や児童生徒との生活リズムの配慮
- ②身体に優しい椅子や机の利用、施設の改善
- ③授業中の小休止を利用した運動

#### ④休み時間の運動の充実

#### ⑤スポーツ授業の充実

#### ⑥教科外の運動や行事の充実

①～③について具体的に説明すると、たとえば「多様な学習形態や児童生徒の生活リズムへの配慮」では、座学であっても長時間、椅子に座ったままで学習が進むのではなく、学習内容と対応させながら、児童生徒達が定期的に体を動かせるように、グループワークを取り入れ、椅子から離れるような工夫がみられている。また、時間割の編成にも児童生徒の集中力を維持できるように行われている。

「身体に優しい椅子や机の利用」では、通常の椅子に加えて、バランスボール(Gボール)を椅子代わりに使用することや、児童生徒が屋内外での運動を活発に行えるよう固定施設遊具を充実させるなどの、工夫が見られている。

「授業中の小休止を利用した運動」では、授業開始から20分ないしは30分程度経過した後、簡易なストレッチやリラクゼーションを促進する体操を行う。

このように、ベバークテシュレでは学校教育全般に関わって様々な工夫が見られている。ただし、こうした6つの内容は全ての学校に適用されるわけではなく、部分的に実施されているといえる。

#### (4) 多様な現地校

このような背景を持つベバークテシュレであるが、実際に各研究者が現地へ赴いて調査を行った結果、運動を積極的に学校教育に位置づけていく面では共通点が見られているものの、個々の学校や地域によって、全く異なる実践形態が見られていた。

具体的には、外国人籍の生徒が多く在籍する学校では、異文化の交流や統合を重視しており、そのための大きな手段として運動を位置づけている学校があつた。また、半日制から全日制への移行にあたり、午後から夕方までの時間を有効に過ごす方法として運動プログラムが活用される学校もあつた。さらには、学習そのものの在り方を再考していくために、座学を含めた全ての教科において体験型の学習を推進し、動きながら学ぶという考え方をとり入れている学校もあつた。

こうした差異を生み出す理由はいくつか挙げられるが、一つは、このプロジェクトを推奨する学者や実践家達の依拠する理論が複数ある点である。具体的には、概ね4つの理論を用いている。

- ①「運動教育」を理論の柱としている Christina Müller (主にザクセン)
- ②「健康教育」を理論の柱としている Urs Illi や Uwe Phüse (主にスイス)
- ③「学習空間・生活空間としての学校」「学

習の家」という教育学の理論を柱としている Kulpseh Sahlmann(主としてノルトライン・ヴェストファーレン)

④「学校文化の創造」という教育学の理論を柱としている Ralf Laging や Reiner Hildenbrandt(主にヘッセンとニーダーザクセン)

以上のように拠り所となる理論が複数有り、どのような研究者や自治体と関わったかによって、その学校の在り方が大きく異なっている。それが大きな差異を生み出す理由の一つである。

一方で、異なる学校が生じる背景のもう一つの理由として、学校長を中心とした各学校の裁量権の問題がある。学校長をはじめとした教職員の意向や保護者の意向が学校の運営方針に反映されており、学校全体としては運動を重視しながらも、それを学校のどこに位置づけるかは、最終的には学校の判断に任せられている。たとえば、同プロジェクトに向けての人員や施設などの予算面については、学校長が主導権を握って外部機関(福祉団体、州政府、健康関連団体など)との交渉にあたりたり、保護者会の説明や保護者の積極的な参加などについても学校長が大きく関与していたりする。教育委員会の方針に対して学校現場が従うというよりは、学校運営に参画している学校長や教職員、保護者らの声が重視されている。

このように運動それ自体が教育的な目的という側面を持ちつつも、一方で学校現場の実態にあわせて、運動を教育の手段として位置づけている面も見られており、これが大きな差異を生み出す背景となっている。

(5)ベバークテシュレの課題と同プロジェクトから我が国へ提言

今回のベバークテシュレに関わる調査を通じて、ドイツ社会の中で、学校教育の担うべき課題が極めて複雑化している実態が浮かび上がってきたといえる。労働形態の変化を背景として、学校半日制から終日制への移行を進めている地域が増えている点や、児童生徒の健康問題が指摘されている点、さらには、外国籍を持つ児童生徒との交流、低学力が問題となっている点など、ドイツの教育界が抱えている問題がある。そうした問題を運動という点から打開していこうとする試みこそが、ベバークテシュレプロジェクトである。そのため、ベバークテシュレというのは、一つの傘概念であって、その実態(ねらいや方法)は極めて多様であったといえる。

しかし、いずれのプロジェクトもその効果を実証するデータが少ない点や、比較的、年齢層が低い学年の実践が盛んに行われている点からすると、上級学年のプログラムをどのように充実させていくのかに課題も見ら

れている。

こうしたドイツの事例を一つの鏡としたときに、我が国ではいくつか取り組みの方向性が見えてくる。

一つは、我が国の硬直化した体力づくりへの取り組みからどのように脱却していくかが課題となる。もっぱら、我が国の場合には、数値の上下に一喜一憂しがちであり、加えて、体力問題の打開を図る場合に、数値を直接的に向上させることに関心が向きがちで、児童生徒の体力づくりへの動機付け、あるいは大規模な環境整備は軽視されがちである。

二つ目は、各学校の裁量権をどのようにするかである。ドイツの取り組みを一面的に肯定していくことには問題があるが、我が国の場合には、ドイツと比べても学校長や教職員の裁量権が十分あるとはいえず、特色を出しにくい環境にあるともいえる。

三つ目は、身体を通じた体験的な学びを今後どのように仕組んでいくのか、といった点である。我が国でも教育学分野(特に他教科)において学びの捉え直しが叫ばれているが、こうした運動・動き・身体を通じた学びをどのように体系化するかも一つの課題となるであろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

長谷川聖修、近藤智靖、スイスの Bewegte Schule に学ぶ(前編)、体育科教育、査読無、58巻9号、2010、pp.5-8、p.73

長谷川聖修、近藤智靖、スイスの Bewegte Schule に学ぶ(後編)、体育科教育、査読無、58巻10号、2010、pp.5-8、p.73

長谷川聖修、檜皮貴子、深瀬友香子、ヨーロッパにおける子どもたちのスポーツ活動と環境-スイスにある田舎の小学生の半日-、体育の科学、査読無、60巻7号、2010、pp.454-459

[学会発表] (計1件)

近藤智靖、岡出美則、田附俊一、長谷川聖修、丸山真司、Die Forschungsbericht über “Bewegte Schule” in Deutschland und Schweiz、日独スポーツ会議、2010年10月7日、中央大学駿河台記念館

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

近藤 智靖 (KONDOH TOMOYASU)  
白鷗大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50438735

### (2) 研究分担者

岡出 美則 (OKADA YOSHINORI)  
筑波大学・人間総合科学研究科・教授  
研究者番号：60169125  
長谷川 聖修 (HASEGAWA KIYONAO)  
筑波大学・人間総合科学研究科・教授  
研究者番号：10147126  
田附 俊一 (TAZUKE SHUNICHI)  
同志社大学・スポーツ健康科学部・教授  
研究者番号：30197389  
丸山 真司 (MARUYAMA SHINJI)  
愛知県立大学・文学部・教授  
研究者番号：10157414

### (3) 連携研究者

( )  
研究者番号：